

大野地区各種団体連絡協議会

1 基本データ

- 地区名 大野地区
- 地区人口 13,621 人 (H30.1.1 現在)
- 世帯数 5,154 世帯
- 面積 6.3 km²
- 地区の沿革

大野地区は、大野盆地の北西部の平坦地に位置し、東は上庄地区、南は小山地区と上庄地区、西は乾側地区と小山地区、北は下庄地区に接し、政治・経済ともに大野市の中心である。

古代より中世初期にかけては、政治経済の中心は小山地区や乾側地区にあり、大野地区は荒涼とした原野に数村が所在していたと考えられている。

中世中期には、亥山城（現在の日吉神社付近）の周辺に小規模な城下町が形成されていたが、今から 400 年以上前、天正期に金森長近が大野城を築城し、新しく建設した城下町が、大野地区中心部の街区や用排水路の原型となっている。

明治 4 年の廃藩置県により大野藩は大野県となったが、その年のうちに福井県、足羽県とめまぐるしく変わった。県名はその



亀山の頂に建つ越前大野城

後も明治 6 年に敦賀県、明治 9 年に石川県と変遷したが、明治 14 年に再び福井県となり現在に至っている。

足羽県地理誌によると、廃藩置県当時の大野地区は戸数 2,083 戸、人口 9,052 人であった。



亀山から見た市街地

明治 22 年の町村制施行により、5 つの小区がまとまって大野町が誕生した。大野町は、昭和 29 年の町村合併により大野市の一地区となっている。

○実施主体

大野地区各種団体連絡協議会

2 現状と課題

大野地区は 73 の行政区から成り、地理的要件や歴史的背景から大きく 6 つの地区に分かれている。まちづくりの取り組みは大野地区全体だけでなく、6 地区それぞれにおいても地域性を反映し進められている。

そのため大野地区全体で共通した目標を掲げ、まちづくりに取り組むことについては、地域により温度差があるのが実情となっている。

3 事業の内容

平成28年に結の故郷づくり交付金事業実施要綱が改正され、交付金の対象となる事業実施主体が、公民館区域を単位とする地域づくり団体のほか、市が設置する公民館の区域を単位とする社会教育関係団体及び自治会に拡大されたことから、平成29年度は大野地区各種団体連絡協議会において交付金の活用方法を検討することとなった。

大野地区各種団体連絡協議会構成団体

大野地区区長会、大野地区まちづくり推進協議会、大野地区体育協会、大野長生会、大野地区子ども会育成会連絡協議会、大野地区社会福祉協議会

大野地区各種団体連絡協議会において活用方法について話し合いを行い、大野地区区長会、大野地区体育協会、大野長生会が交付金事業に取り組むこととなった。なお大野地区区長会については、それぞれの地区における課題解決に活用したいとの声があがり、第1地区から第6地区までそれぞれが事業に取り組むこととなった。

【第1地区】

『南っこイルミネーション』

第1地区内の春日神社において行われる良縁の樹のイルミネーション事業「縁のあかり」に合わせ、有終南小学校の周囲でもイルミネーションを点灯し、地域のにぎわいとイベントとの相乗効果を狙い事業を行った。

事業を行うにあたり「縁のあかり」主催者の『カスガ良縁団』、イルミネーションの設置場所となる有終南小学校へ許可や協力を呼び

かけ、その結果、10月1日の点灯式を一連のイベントとして行うこととなった。

設置作業は、有終南小学校PTA、区長会、まちづくり委員会が共同で行い、地区住民と子どもたち、その保護者らがお互いに協力しながら行った。

点灯式では、有終南小学校から春日神社まで子どもたちが練り歩き、春日商店街に設置



設置作業

された行灯に順番に明かりを灯し、最後に良縁の樹のイルミネーションを全員で点灯する例年になく大掛かりなものとなった。

これらの取り組みは報道機関にも取り上げていただき、地域の宝である良縁の樹を広くアピールすることにつながったほか、一連の作業を通じて地域住民同士が交流を深めることとなった。



『縁のあかり』点灯式

【第2地区】

『大野第2地区防災活動一斉行動日』

地域全体の防災意識の醸成・向上を図るため10月1日を防災活動一斉行動日とし、第二地区の全町内会（9地区）が、それぞれの特性に応じた防災活動を一斉に実施した。

ハザードマップ作りや避難訓練、消火訓練、土嚢作りやAED講習など、地区の特性に合



訓練の様子

わせ、さまざまなメニューに取り組み、防災意識の高揚を図った。

また地区内の児童養護施設と協働で防災訓練を行う地区があったなど、単一行政区ではなく地区全体で一斉に取り組むことで、比較的規模の大きな訓練を行うことができた。

さらには今回の訓練を契機に自主防災会を結成した地区や、防災防犯課の協力を得ながら防災資機材の整備に着手した地区など、地域全体で防災をテーマに活動したことが、さ

まざまな内容へとつながった。

【第3地区】

『大野第3地区 住民交流輪投げ大会』

第3地区は昭和20年代から50年代にかけ住宅街としてそれぞれの町内会が出来たが、若返りする世帯が少なく、高齢者のみや一人暮らし高齢者の世帯が多くなっている。

そのため住民同士が交流する機会やスポーツへ参加する機会が少なくなっており、誰も



輪投げの講習会



輪投げ大会

ができるゲーム感覚のスポーツを実施することにより住民同士の交流を図ろうと輪投げ大会を企画した。

各町内会で公式輪投げの説明会と練習を行い、最後に10町内会が集まって本大会を開催した。

輪投げは初めてという町内が多かったため、公式輪投げのやり方などについて、大野市スポーツ推進員から指導を受けた。最初に区長を対象とした説明会と練習を行い、その後に各町内において説明会と練習を行い大会に向けて腕を磨いた。大会には全町内会から135人が参加し、3ゲームの合計得点を競い合いながら交流を深めた。

【第4地区】

『大野第4地区 高齢者お楽しみ会』

普段、家に引きこもりがちな高齢者に外へ出てもらい、お互いの交流を深めてもらうことや、近所に住んでいてもなかなか顔を合わさない人たちへお互いの現況を確認し合う機械を提供することなどを目的に実施した。

お楽しみ会の開催にあたり、事前に手持ちの太鼓（パコーン）づくりのワークショップを行い、当日それを持ち寄って出演者と一緒に演奏できるようにした。

会場入り口前には、昭和38年2月の福井新聞の雪害記事が並べられたほか、会場内では、昭和30年代の懐かしのニュース映画『福井新聞ニュース』が上映され、当事の世相が色濃く反映された映像を懐かしそうに眺めていた。



昭和38年の雪害記事

その後、佑雅秀喜代会（ゆうがひできよかい）の民謡に続き、祥雲太鼓（しょううんだいこ）の演奏が行われ、事前に作成したパコーン（太鼓）を一緒にたたき、会場が一体となって盛り上がるなど、集まった参加者らが楽しいひと時を過ごしていた。



祥雲太鼓の演奏

【第5地区】

『大野第5地区 防災活動』

大野第5地区では、8月6日の大野市総合防災訓練で学びの里「めいりん」を会場に避難訓練が行われることに合わせ、地域の防災



防災マップづくりワークショップ

意識の高揚を図ろうと、防災ハザードマップ作りを行った。

防災防犯課の協力のもと、市の防災アドバイザーに就任いただいている京都大学防災研究所より講師を招き、どのような点に注意すべきかをワークショップで学びながら、地域の特徴を反映したマップ案を作成した。

事前にワークショップを開催した効果もあり避難訓練当日は多数の参加があり、それぞれの地区で住民の防災意識向上が図られた。

その後、区長が話し合いを重ね、消火器や消火栓の位置、一時避難場所や避難経路、注意すべき空き家など、地区ごとの実情や特徴を反映した独自の防災マップを作り住民へ配布した。



防災マップの例

【第6地区】

『大野第6地区 カレンダーづくり』

大野第6地区では「大野市内の四季折々の風景写真や絵画など」地域が誇る景観をもとにカレンダーを作成した。

作成したカレンダーは、第6地区の各戸へ配布し、地域住民に大野の素晴らしさを改めて実感してもらった。

風景写真や絵画は、現在・過去を問わず募集し、六間通りの突き当たりに旧有終西小学校が映っている懐かしい写真や、おおの踊り



旧有終西小学校の写真

や雪見灯籠のなど大野の四季折々の風景が集まった。

カレンダーは、平成30年4月～平成31年3月のカレンダーを作成した。



【大野地区体育協会】

『大野地区体協活性化事業』

球技大会や体育大会など、地区事業の参加者数に減少傾向がみられる中、スポーツを通じた地域の活性化に向け、どのように取り組むかを考えながら事業を行った。

大野地区体育大会の内容を検討する中で、子どもから大人まで、誰もが参加しやすい種目を新たに追加しようと「なわとびリレー」を行った。各チームから、一般男女、小学生男女、40歳以上男子の5名がエントリーし、



なわとびリレーの様子

びよんびよん跳ねながらフィールドを駆ける姿に会場から大きな声援が送られていた。

また、スポーツを通じた地域の活性化を話し合う中で、平成30年に開催される福井国



講演会の様子

体を、ひとつの契機とし地域の盛り上げに活用しようと、平成29年に行われた自転車競技プレ大会で優勝した福井県選手、中島康晴氏を招き講演会を開催した。

また会場内では国体推進課の協力を得て、自転車競技やパワーリフティング、カヌーの体験コーナーや、ちびっこ相撲の体験など地元で開催される競技をアピールする場が設けられ、大会に向け機運を高めるよい機会となった。

平成30年は大野地区体育協会が創立70周年の節目を迎えることもあり、地元での国



ちびっこ相撲の様子

体開催と合わせ、スポーツを通じた地域の活性化に貢献できるよう、引き続き取り組んで行きたい。

【大野長生会】

『大野地区交流ウォーキング大会』

大野長生会では、有志がウォーキングクラブを設立し、気候のよい時期にウォーキングを楽しんでいる。

その楽しさをより多くの人に知ってもらい幅広い年代で交流を図ろうと、大野長生会においてウォーキングイベントを開催することとした。

大野地区体育協会、大野地区社会福祉協議会など他団体へも参加を呼びかけたほか、小学校へチラシを配布するなど、広くイベントへの参加を呼びかけた。

コースは自動車の交通量を考慮しショッピングモールVIO駐車場から黒谷観音までの往復約5キロとした。また揃いのビブスを着用しドライバーからの視認性を高めるなど、交通安全に配慮し行った。

当日は天候に恵まれ約50名が参加。準備体操に続き、講師から歩き方のポイントを教わりウォーキングを開始した。

途中、何度か休憩を挟みながら、無事に目



ウォーキングの様子

地的の黒谷観音へ到着、住職より麦茶や軽食の差し入れを頂戴し恐縮しながら乾いたのどを潤した。体力に自信のある人は休憩時間を利用し、黒谷観音の裏の八十八ヶ所巡りコースも歩いていた。参加者は自身の体調や体力に合わせ思い思いに楽しんだ。



黒谷観音で記念撮影

4 事業の成果

今年度、各種団体連絡協議会において交付金事業に取り組んだことにより、各団体が現況や課題などを整理することにつながった。

大野地区体育協会や大野長生会においては、会員同士の事業開催に向けた話し合いを通じて、課題の共有や会員間の交流がこれまで以上に図られ、地域コミュニティの活性化につながった。

区長会においては第1～第6の各地区で事

業を行ったことにより、それぞれの区長同士が集まる機会が増え、身近なところから、自らの手で行う地域づくりを実践することとなった。

また単一行政区ではなく、いくつもの地区がまとまって事業を行ったことで、より規模の大きい取り組みが可能となったほか、地区同士が事業に関する情報交換を行ったことにより内容の充実が図られるなど、地区で共通して目標に取り組むことによるメリットが活かされることとなった。

5 今後の展望

今年度は、各種団体連絡協議会で初となる取り組みであったことから、どの団体も手探りで事業を行っていた。来年度はこの経験をもとに更なる内容の充実や新たな取り組みへとつなげたい。

平成30年度には、大野地区体育協会が創立70周年を、大野長生会は創立60周年を迎える。この節目を契機として、よりいっそう地域コミュニティの強化へ取り組んでいきたい。

さらに大野地区においては、第1地区から第6地区まで、それぞれの地区がそれぞれの取り組みで地域コミュニティの活性化を進めており、その活動からお互いに刺激を受けながら、やがては地区全体の活性化へとつながっていくことが期待される。